

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：34603

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06783

研究課題名(和文)『河海抄』を中心とした『源氏物語』古注釈書・享受資料に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Research into Old Commentaries and Other Reception Materials on the Tale of Genji, with a Focus on the Kakaisho

研究代表者

松本 大 (MATSUMOTO, Oki)

奈良大学・文学部・講師

研究者番号：30757018

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、南北朝期成立の『源氏物語』の注釈書である、四辻善成『河海抄』を研究対象とし、(1)伝本調査と注釈内容の分析、(2)四辻善成の源氏学の背景・形成・展開・伝播に関する考究、(3)『河海抄』以外の古注釈書・享受資料に関する検討、以上三つの観点から研究を行った。各地の所蔵先に赴き、現存する『河海抄』諸本への基礎的な調査を行いつつ、注釈の内容・方法・性質についても検討を加えた。これにより、『河海抄』を取り巻く文学的動向について、その一部を実証的に明らかにすることが出来た。

研究成果の概要(英文)：In this project I studied the Kakaisho, the Northern and Southern Courts-period Genji commentary by Yotsutsuji Yoshinari, focusing my research in particular on (1) a survey of manuscripts and an analysis of commentary content, (2) a consideration of the background, formation, evolution, and dissemination of Yotsutsuji Yoshinari's Genji scholarship, and (3) investigations of old commentaries and other reception materials outside of the Kakaisho. I conducted a basic survey of extant manuscripts of the Kakaisho traveling to various collections where they are housed, and in addition examined the content, method, and nature of its commentary. Through this, I was able to empirically clarify, in part, some of the literary trends that surrounded the Kakaisho.

研究分野：中古文学

キーワード：河海抄 四辻善成 注釈 古注釈書 源氏学 享受 注釈史

## 1. 研究開始当初の背景

従来の『源氏物語』古注釈書研究は、読解に還元される事象のみを対象とし、和歌や歴史、文化史などの他の研究領域との繋がりに関心を払わなかった。そのため『源氏物語』研究のみでしか通用しない、非常に希薄で単調な研究となっており、関連諸学問との学際的な研究成果を挙げることが出来なかった。この状況は、近年、岩坪健氏や新美哲彦氏等によって改善されつつあるが、未だ不十分である。

本研究では、上記の問題点を踏まえ、『源氏物語』注釈史研究・享受史研究の抜本的改革を目指す。それを実践する基幹資料としては、南北朝期成立の『河海抄』を扱う。『河海抄』は、北朝の公家である四辻善成(1326～1402)によって編まれた注釈書で、貞治初年(1362)頃の成立とされる。本書は、後世の注釈書に多大な影響を与えた点で、『源氏物語』注釈史・享受史において最も重要な古注釈書の一つでありながら、その大部さゆえに現在まで基礎的な研究がほとんど行われず、現存諸本の分類や成立時の学問体系との関わり合い、注釈を施した意図や手法等、未解明な箇所が多く残されている。また作者の四辻善成に関しても、『河海抄』自体の研究が十分でなかったために、他の事跡との繋がりは不明なままにある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、『源氏物語』の古注釈書である四辻善成『河海抄』を研究対象の中心に据え、各種の『源氏物語』古注釈書・享受資料そのものに対する基礎研究(諸本調査と注釈内容の検討)と、それぞれの古注釈書・享受資料が持つ学際的な価値や意義の解明を通して、物語読解への利用に偏りがちであった従来の研究状況を刷新することである。

また、源氏学を発端として、各時代の公家の学問のあり方を突き止めることをも目的

とする。古注釈書成立当時の学問体系を踏まえた上で、注釈の有り様を一つずつ丁寧に紐解き、『源氏物語』古注釈書・享受資料の本来持つ学術的価値を中世学問史の観点から再定義することを目指す。

## 3. 研究の方法

研究代表者は、これまで『河海抄』を中心とした『源氏物語』古注釈書の基礎的研究を蓄積してきた。研究成果を大別すると、『河海抄』の現存諸本の調査・系統分類・未紹介伝本の紹介、『河海抄』の注釈方法と当時の学問体系との関わり合い、『河海抄』が後世に与えた影響や『河海抄』以後の各注釈書のあり方、となる。以上の研究成果は、いずれも、諸本調査と注記内容の検討という基礎研究を土台として、先行研究が見落としていた学際的視点を取り入れたものである。

これまでの『源氏物語』研究において、上記の視点を統合的に組み合わせられて進められた研究は存在しない。本研究は、これまでの研究に続くものとして、ここで述べた三つの観点を継承しながら、以下の三点から研究を遂行する。

なお、各課題はそれぞれの観点から設定してあるが、互いに連動する。また、研究方法に関しては、文献による実証を重視し、これまでの研究によって得られた知見や手法を、状況等に応じた修正を適宜加えながら援用する。

### (1) 『河海抄』の伝本調査と注釈内容の分析

本研究では、各地に所蔵されている未見諸本の調査を行いながら、注記内容の差異に注目する。諸本調査による本文分類とそこから窺える増補改訂の実態を把握し、本書の注釈姿勢や施注方法を総体的・網羅的に把握する。

### (2) 四辻善成の源氏学の背景・形成・展開・

#### 伝播に関する考究

四辻善成の学問体系における源氏注の位置付けや、後世にかけての影響の実相を明らかにする。同時代から後世にかけての、源氏注・歌学書・連歌論書等の典籍を用いながら、善成の源氏学の実態をより明確に浮き彫りにする。

#### (3) 『河海抄』以外の古注釈書・享受資料に関する検討

上記(1)(2)で得られた成果を援用し、これまで看過されてきた注釈書や享受資料に眼差しを向ける。源氏学と周辺諸学の接点に焦点を当て、和歌や有職学、歴史学で蓄積されてきた研究成果を踏まえつつ、中世の学問体系における源氏学の実態を紐解く。また、『伊勢物語』の注釈書をはじめとする、他作品の注釈書にも目を向け、多角的な視点からの検討も行っていく。

#### 4. 研究成果

研究方法で述べた三点について、それぞれの項目ごとに成果を述べる。

#### (1) 『河海抄』の伝本調査と注釈内容の分析

岡山大学附属図書館・大洲市立図書館・今治市河野美術館、国文学研究資料館等に赴き、『河海抄』の伝本や他の享受資料の基礎的調査を行った。また、マイクロフィルム・紙焼写真による調査についても、主に国文学研究資料館の所蔵資料をもとに、当初の計画通りに進めた。天理図書館の資料については、本研究の期間だけでは十分な調査が行えなかったため、今後も継続して赴く予定である。

注釈内容に関しては、巻十五に関しての基礎的な検討を終えた。これは、巻十五の冷泉家時雨亭文庫蔵本が紹介されたことと関連し、当初の予定を変更し、巻十五への調査をより重点的に行ったためである。この成果

は、当初は最終年度に論文発表する計画であったが、より正確な検証を加える必要が出てきたため、次年度以降に論文発表することとした。

#### (2) 四辻善成の源氏学の背景・形成・展開・伝播に関する考究

行阿『原中最秘抄』と一条兼良『花鳥余情』を対象として、この両者と善成の源氏学や『河海抄』との関係性を明らかにした。

『原中最秘抄』に関しては、行阿説に悉皆的な調査を加え、二条良基周辺に存在していた源氏学の諸相について再検討を試みた。この結果、行阿説が行阿独自説のみで成り立っているわけではないこと、『河海抄』との密接な影響関係を想定すべきこと、以上の二点を明らかにした。この成果は、論文として発表することが出来た。

『花鳥余情』については、『花鳥余情』による『河海抄』利用の実態を把握するとともに、『河海抄』が『花鳥余情』の注釈を導く一つの補助線として働いた可能性を浮かび上がらせた。この成果は、中古文学会での発表によって公開し、次年度以降に論文化する予定にある。

また、この他にも、物語注釈全般にも関わる研究として、物語注釈に見られる複数説の提示に注目し、注釈方法の実態について、同時代から後世にかけての諸書との比較検討を行った。この成果についても、すでに論文化しており、次年度の刊行が決まっている。

#### (3) 『河海抄』以外の古注釈書・享受資料に関する検討

『源氏物語』の古注釈書・享受資料に関して、『源氏物語』の抜書や古筆切といった資料を用いながら、享受史における場面選定の基準について考察を加えた。また、『伊勢物語』の注釈書についての検討として、宗祇『伊勢物語山口記』への基礎的研究を施した。奈

良大学図書館蔵本の翻刻・紹介を行いつつ、現存伝本への調査を通して本書の性格の一端を明らかにした。この点については今後も継続して研究していく計画にあり、次年度に学会で報告することとなっている。

この他にも、『毘沙門堂本古今集注』『冷泉家流伊勢物語古注』を対象として、物語注釈と他の学問領域との関係性について考察を加えた。これらは次年度も継続して取り扱う課題であり、適宜学会発表や論文発表によって成果を公開していく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

松本 大、奈良大学図書館蔵『伊勢物語和哥注』翻刻、『奈良大学紀要』、査読無、第45号、2017、pp.51 - 77

松本 大、『原中最秘抄』の性格 行阿説への再検討を基点として、福島金治編『学芸と文芸』(生活と文化の歴史学9)、査読無、1、2016、pp.228 - 257

〔学会発表〕(計6件)

松本 大、冷泉家流伊勢物語古注の内容をどう捉えるべきか、日本文学協会第71回大会・ラウンドテーブル「伊勢物語の古典化 冷泉家流伊勢物語古注研究の再検討」、2016・11・6、二松學舎大学(東京都千代田区)

松本 大、『花鳥余情』による『河海抄』利用の実相、平成28年度中古文学会秋季大会、2016・10・23、大阪大学(大阪府豊中市)

松本 大、『花鳥余情』における『河海抄』利用、第2回大阪大学古代中世文学研究会夏期セミナー、2016・8・31、エクシブ有馬

離宮(兵庫県神戸市)

松本 大、『伊勢物語山口記』の現存伝本とその性格、国文学研究資料館機関研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」第2回研究会、2016・8・18、国文学研究資料館(東京都立川市)

松本 大、『花鳥余情』が示す文脈解釈の再検討、第276回大阪大学古代中世文学研究会、2016・6・25、大阪大学(大阪府豊中市)

松本 大、例示が導く文脈理解 源氏学における『枕草子』 「すさまじきもの」の利用再考、第274回大阪大学古代中世文学研究会、2016・3・26、大阪大学(大阪府豊中市)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 大 (MATSUMOTO, Oki)  
奈良大学・文学部・講師  
研究者番号：30757018